

# 宮古魚港の火災

2014年4月18日

古市場付近で発生した火災は1時間経って鎮火しない。15時18分、町内の高台から遠望する。以下は日報の記事。

18日午後2時ごろ、宮古市臨港通5の東日本大震災の浸水区域で建設が進められていた宮古漁協（大井誠治組合長）の冷凍冷蔵庫・加工処理施設から「黒い煙が出ている」と、近隣住民から119番通報があった。けが人はなく、発生から約8時間後の午後10時すぎに鎮火したが、同施設のうち鉄骨一部2階建ての冷蔵庫棟を全焼。地域の水産業復興に欠かせない施設の火災に、関係者は落胆をにじませた。

現場は市魚市場北側の宮古港岸壁。震災前は旧魚市場があり、現在は近くに営業再開した水産加工工場などがある。

同施設は国や県の支援を受けて宮古漁協が発注し、久慈市の宮城建設（竹田和正社長）が建設工事を進めていた。同日は電気設備や内装などの業者が仕上げ作業を行い、溶接も行われていたという。同漁協によると、施設は5月中旬に完成予定だった。

施設内にいた60代の男性作業員は「いきなり黒い煙が出て、周りが見えなくなった。逃げるので精いっぱいだった」と緊張気味に語った。

写真はスライドしてご覧ください。



①



②